

卒業50周年記念事業

伝統を引き継ぐ

友國 誠二 (三高23回卒)

3月10日、卒業50周年記念事業である母校への寄付を泉谷校長に手渡すことができ、4月には次年度へのバトンタッチもスムーズに終わられ、大先輩から連綿と続くこの事業に一つの区切りをつけられたことに、ほっとしている。近隣の、いや全国の高校で、ある年度の卒業生が母校に寄付をする、というのはよくある話ではある。それが各学年に継承されていく、というのは寡聞にして知らない。これが三高らしさだ、というところまでだが、何故続いているのだろうか。それは「母校愛と“そういう伝統”」ではないかと思うのだ。母校愛は誰しもある。香川県内には三高同等の、いやそれ以上の歴史を持つ高校もあるが、このようなことは簡単にまねられるものではないだろう。母校に対する思い入れと“そういう伝統”が必要なのだ。次年度も既にチームを立ち上げて、進めてくれているようである。この他校にはない素晴らしい伝統を後輩たちもずっと引き継いでもらいたいと願う。



先日、この事業に対する苦労話でも寄稿すれば、というご案内を頂いた。私には苦労というものは、ほぼ無い。各組合計15人に世話人を依頼しても、快く引き受けてくれ、彼らとの会合が楽しみであったのかもしれない、と思うくらいだ。残念なのは物故者が想像以上に多かったこと。卒業して50年、古希という言葉を思わずにいられない。また、学年合同同窓会の延期。コロナは私たちの友情にも水をさす。この会報が発行される頃には、開催されていることを願う。そして、最も難しかったのが個人情報。

住所掲載不可の人に案内状を出すべきなのか、不明な人の住所を知ってはいるが教えない、とか。世話人とは何なんだろう。

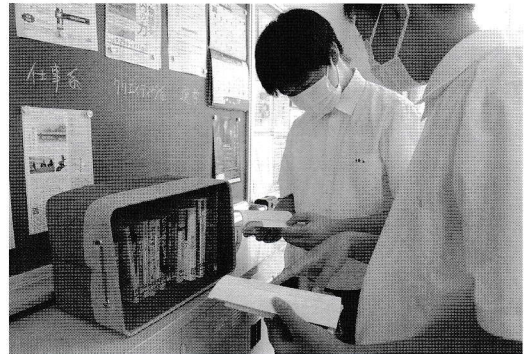
私たちの学年は、目標以上に寄付金が集まりました。このことを誇りに思うと同時に多くの寄付を頂いた同級生に感謝したいと思います。そして、頑張った事業を成功させた世話人の皆様、お疲れさまでした。

安倍道典文庫の設置

昨年、三高3回卒業の安倍道典様より、多額のご芳志をいただきました。

安倍様のご希望により、生徒・職員が選んだ図書を245冊購入いたしました。その中から20冊を各クラスに置き、図書室にいかなくても、空いた時間に本が読め、借りることもできるようにしました。

生徒には、本を身近に感じてもらい、新たな分野の本に出会ってほしいと願っております。



生ごみ処理機の寄贈

吉田飼料株式会社 吉田和彦様 (三高32回卒) と中国銀行様のご厚意により、生ごみ処理機をいただきました。SDGsの観点からも「三高みんなの食堂」で有効に活用させていただきます。

